

深圳レポート

中国のEV用充電スタンド市場分析 EV用公共充電スタンドの設置状況

ポイント：

- EV用公共充電スタンドの保有量は継続的に増加
- 高い地域集中度
- 8社が市場をリード

参照サイトURL：

<https://bg.qianzhan.com/report/detail/300/191017-fb542b36.html>

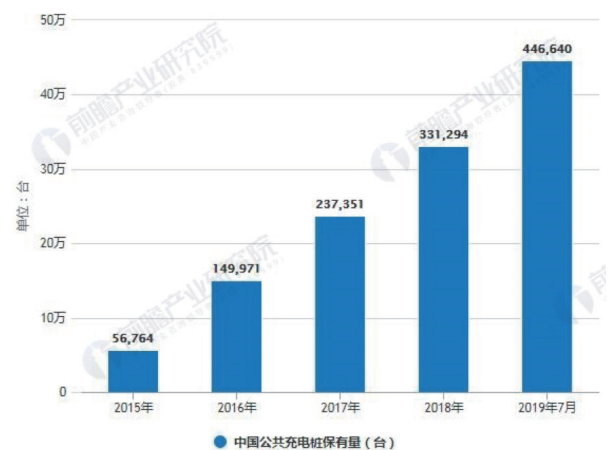
公共充電スタンドの保有量は継続的に増加していく

2015年以前、中国のEV産業は初期段階にあり、国および地方政府はまだ充電関連の政策を打ち出していなかった。そのため、公共充電スタンドの保有量は低く、2015年末時点の公共充電スタンドの保有量はわずか5万6764台だった。

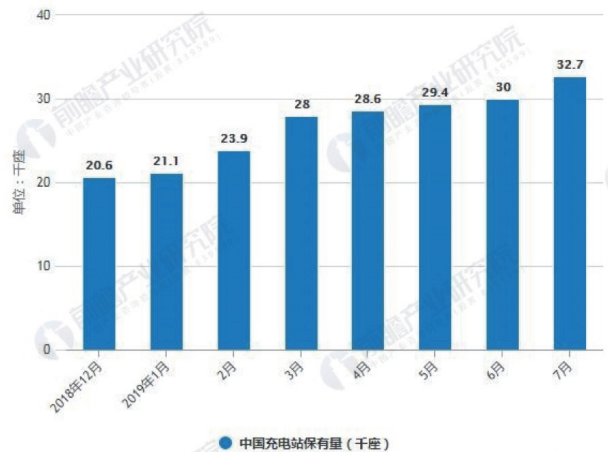
しかし、国内EV産業の発展を受け、国および地方政府による充電関連政策が導入され、公共充電インフラの発展が始まった。2015年から2018年にかけて中国の公共充電スタンド数は一気に増加し、2018年末には、中国の公共充電スタンドの数は33万1294台に達している。また、2019年7月時点では、44万6640台に増加した。

中国の電力配送会社「国家电网」が設定した基準によると、「集中充電ステーション」とは3台以上の大型高電圧直流給電設備で構成され、充電モードは高速充電を主としている。

2018年、中国には合計で約2万600箇所の公共充電ステーションが存在していたが、2019年7月には約3万2700箇所まで増加した。



▲2015年-2019年7月の公共充電スタンド保有量
データソース: 前瞻産業研究院のまとめ



▲2018年-2019年7月の
中国の公共充電ステーションの保有量
データソース: 前瞻産業研究院のまとめ

公共充電インフラの高い地域集中度

2018年12月時点における、公共充電スタンドを4万台超保有しているエリアおよび台数は以下の通りだ。

北京4万4640台。上海4万1315台。

3万台を超えるエリアは広東省(3万6009台)と江蘇省(3万3809台)。

1万台以上のエリアは山東省、浙江省、河北省、天津、湖北省、安徽省、陝西省である。

2019年7月時点における公共充電スタンド保有量上位のエリアは、江蘇、北京、広東、上海、山東、浙江、安徽、河北、湖北、天津となっている。これら10エリアの保有量の割合は74.9%に達した。



▲2019年7月時点の各地方の公共充電スタンド保有量TOP10 データソース:前融産業研究院のまとめ

2019年7月時点では、中国には合計3万2700箇所の公共充電ステーションがあり、その内広東省が最も多く、4573箇所だった。次いで上海3903箇所、北京3537箇所であった。TOP10のエリアにある公共充電ステーションの合計は、全国総量の73.5%を占めた。



▲2019年7月時点の 各地方の公共充電ステーション保有量TOP10 データソース:前融産業研究院のまとめ

8社が市場をリード

「中国充電聯盟」の統計データによると、2019年7月時点で1万

台を超える充電スタンドを設置・運営している充電施設運営企業は全国で計8社であった。

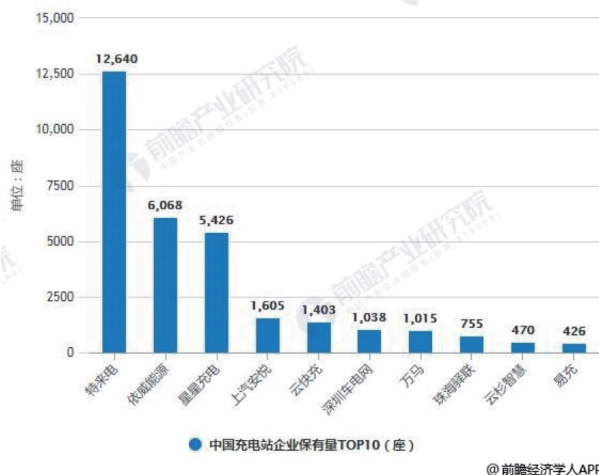
「特来电」13.5万台、「星星充電」9万台、「国家电网」8.8万台、「依威能源」2.3万台、「雲快充」2.3万台、「上汽安悦」1.7万台、「中国普天」1.4万台、「深圳車電網」1万台。これら8社で全体の89.7%を占めている。



▲2019年7月時点の公共充電スタンド運営企業保有量TOP10 データソース:前融産業研究院のまとめ

2019年7月時点では、全国に計17社の大手充電ステーション事業者(100台以上の充電スタンドを保有する企業)が存在しており、その内「特来电」の充電ステーションが最も多く、1万2640箇所。2番目は「依威能源」の6068箇所、3番目は「星星充電」の5426箇所だった。

運営する充電スタンドの数が1000台を超える事業者は計7社あり、前出の「特来电」「依威能源」「星星充電」のほか、「上汽安悦」「雲快充」「深圳車電網」「万馬」である。これら7社の充電ステーション数は、全国保有量の86.1%を占めた。



▲2019年7月時点の 公共充電ステーション運営企業保有量TOP10 データソース:前融産業研究院のまとめ

EV業界は「高投資」「有形資産」「高いサービス性」等の特徴を有している。業界の継続的な発展で競争はますます激化し、公共充電スタンド運営企業に対する要求も日々高まっているが、これらの企業が国内EV市場の急速な発展によってもたらされる利益を享受しているのは確かであろう。

中国版掃除機ロボット

社名	寧波灑哇地呷電器有限公司		英語名	SWDK	
代表者	俞少蔚		URL	http://www.swdk.com.cn/index.html	
所在地	浙江省余姚市陽明街道方橋工業園區育才東路 128 号				
売上 (RMB)	N/A	従業員（人）	50 ～	創業年	2013.04.16
資本金 (RMB)	150.042 万（約 2,400 万円）				
サービス内容	掃除家電の開発販売				



家庭用掃除家電の製造・販売を行っている会社で、シャオミー（小米）・京東（大手ECサイト）などから数千万元の出資を受けている。製品:掃除機ロボット、床拭きロボット、掃除機と床拭きが一体となった家電など。

ユーザー:一般家庭と企業

創業から掃除家電の開発一筋。他社と比べて製品開発に1年以上のリードがあるとされ常に業界のスタンダードを作っている。販路も太い販路を確保しており、Tmall（アリババの個人用ECサイト、偽物が少ないなどの評価がある）や前述のシャオミーや京東を含め海外にも販路を持っている。シャオミーのサプライチェーンを活用し高クオリティの製品を製造することができ、最初からネット販売に注力しているのでコストも一般的な家電メーカーと比べても低く抑えることができる。

過去3年間300%の前年比成長率を維持しており、数億元の利益を確保している。A市場（日本の東証1部）への上場も視野に入れている。

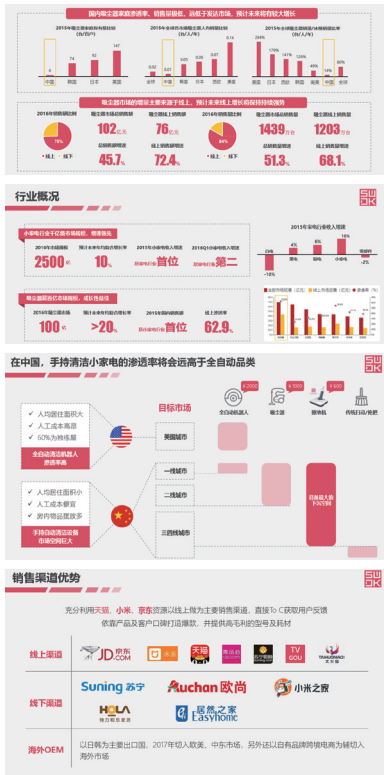
■業界ポジション:種類の多さでリード。業界をリードする掃除家電メーカー

シャオミーのサプライチェーンを活用することで、低コスト高クオリティを実現。著名投資家の出資と有名人を活用した広告戦略で急速にファンを増やし、今では2500万人のフォロワーがいる。

オンラインオフライン問わずカスタマーサポートが厚く全ての通販サイトで99.97%以上の購入者が満足したと答えている。そうした部分も含めてSWDK社は今後の業界スタンダードになっていくと注目されている。

特に、これまでの掃除機型のお掃除ロボットと床拭きロボットを1台でこなせるタイプの掃除機を開発。現在は自動ではなくコードレスで人間が使う必要があるが、将来的には1台2役のロボット開発も行う予定。現行モデルでは1300円で、コードレス掃除機と比較しても約700円安いのが魅力的。

中国の掃除機市場は100億元強とされており、1家庭あたりの掃除機保有率は日本の15分の1、アメリカの25分の1とまだまだ伸びしろがあり、同社の今後の成長余地はかなり大きいとされている。特に全自動のロボットタイプではなく、手持ちタイプの掃除機が特に中国では伸びているのも同社にとっては追い風。



新型コロナウイルスの猛威と スタートアップAI企業の貢献

春節は旧暦の正月にあたり、中国においては1年で一番大きなイベントであり、家族団らんの時でもある。春節が近くなると良く聞かれるのが「有銭無銭、回家過年」、つまりお金があってもなくても、帰省して家族と正月を過ごすという意味で、結果として、帰省による人口大移動がおきる。

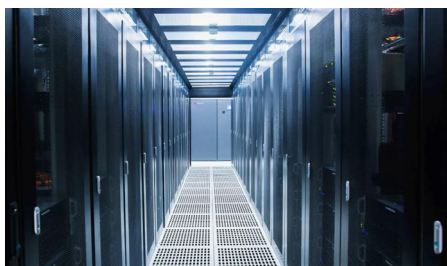
ただ、今年2020年1月24日から(旧暦の大晦日)はいつもの賑やかな雰囲気はまったくない。新型コロナウイルスの感染拡大により、自宅にこもり感染を避けることとなった。

1月30日までの春節休暇が、2月2日まで延期され、その後2月9日まで延長されるという前代未聞のことが起きた。

全国民に外出自粛が求められて、各地で感染拡大防止の為に公共機関、ショッピングモール等が閉鎖されている。生産活動、営業活動が開始できない中、経済的なダメージは計りしれない状況である。

そんな中、深圳のスタートアップ企業である「Sense Time」社はAI技術を活用して疫病対策に貢献している。

Sense Timeの発表によると、深圳の国立スーパーコンピューティングセンターに高性能リソース(20個のGPUサーバーなど)を無料で提供することにより、新型コロナウイルスの徴候について大規模なスクリーニングを実施するとともに、ウイルス異変に関する予測分析をサポートしている。



▲画像出所：Sense Time

唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司
副總經理

姜 香花

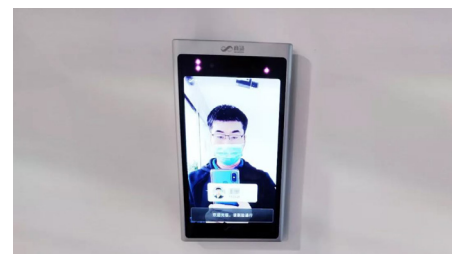
日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日
本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティング
に定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



Sense Timeの主力技術である画像認識領域では非接触スクリーニングソリューションを利用して、公共施設で発熱している人、マスクを未装着の人などの「異常個体」を識別してアラームを出すことができる。下記の画像のように熱画像カメラで歩行者の体温を測定することも可能だ。



また、弊社も深圳事務所を導入しているSensePass Proの顔認識システムも素晴らしい。指紋式ドアロックを使用している会社が多い中、マスク装着時でも認識可能な顔認識ドアロックは指タッチによる感染を効果的に防ぐことができる。熱センサーを付けることにより、出入りをする人々の体温測定もセットでチェックできるので、今後需要が増えると思われる。



日本でも感染者が増えている新型コロナウイルスの流行が早く終焉することを願っている。一方で、これを機会に無人技術や遠隔技術、非接触技術が一段と進化し、実用化されることも期待される。

(レポートは2020年1月16日現在の情報)



深圳未来创新服务中心 MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>